

日中の農業の現状と課題

—中国のスマート農業事例から学ぶ—

所属ゼミ：バトルゼミ

発表者：長田華山・ヒョウシケン

・ 目次

- ① 研究背景・問題意識
- ② 日中農業の現状と課題
- ③ 日中農業の共通課題
- ④ 中国から学ぶスマート農業
- ⑤ スマート農業は魅力付けをする
- ⑥ 提案

・ 研究背景・問題意識

近年、世界人口の増加から食料不足問題が危惧されている。直近ではロシアによるウクライナ侵攻に伴い世界の穀物価格が高騰しており、農業の必要性が再認識されている。

そこで、本研究においては食料の生産拡大目標を掲げているが、労働力不足問題を抱える日中両国の共通の課題に着目し、中国のスマート農業事例から今後の農業問題の解決方法と対応策を検討したい。

・ 研究内容

中国の農業における課題は労働力不足である。長きにわたり実施された戸籍制度により農民の所得の貧富が生まれ、農村の若者は高収入を求め都市部へ出稼ぎに行ったことにより、農村地域には高齢者が残り農業を続けているというのが現状農業従事者の高齢化が深刻である。一方、日本においても同様の課題があり、とりわけ高齢化が中国以上に大きく進んでいる。このほか、JA問題といった中国とは異なる課題も存在している。

こうした中で、中国では近年スマート農業が国策として進められており、労働力不足の問題を解決する糸口として期待が高まっていることから、同様の問題を抱える日本としても中国から学ぶ必要がある。

本研究では、中国のスマート農業の具体的事例分析を通じて日中双方が抱える農村の労働力不足問題の有効な解決策に加え、日中間の農業面での協力の可能性について検討した。

。

・ 提案

中国⇒日本：安価なハイテク農機の輸出 日本⇒中国：ブランド化戦略のノウハウの提供を、行い相互依存作用を起こすことが重要である。日中間の農業協力により、労働力不足問題の解消と農業従事者の所得の向上に寄与できるものと考えられる。